

平成 20 年 3 月 28 日
気 象 庁

IPCC 第 4 次評価報告書における訳語の見直しについて

(1) 不確実性についての日本語

これまで「可能性がかなり高い」、「可能性がかなり低い」、「可能性が格別に低い」としてきた "very likely" (発生する可能性が 90%を超える)、「very unlikely" (発生する可能性が 10%未満)、「exceptionally unlikely" (発生する可能性が 1%未満) の訳語を、「可能性が非常に高い」、「可能性が非常に低い」、「ほぼあり得ない」とした。

また、"confidence"で表される、モデル、解析あるいはある意見の正しさについての、専門家の判断に基づく不確実性の程度を、これまでの「信頼性」から「確信度」として表すこととし、「信頼性がかなり高い」、「信頼性がかなり低い」と訳されていた"very high confidence" (10のうち少なくとも 9 が正しい)、「very low confidence" (10のうち 1 未満) の訳語を、「確信度が非常に高い」、「確信度が非常に低い」とした。

(詳細は別紙参照。)

(2) "Climate Change"

"Climate Change"の訳語については、これまで「気候変化」としてきたが、新聞等の報道で「気候変動」という言葉が定着していること、また「気候変動枠組条約」や「気候変動に関する政府間パネル」などの用語との整合性を考慮して、"climate change"の訳語を「気候変動」で統一することとした。

第4次評価報告書における可能性と確信度の表現について

IPCCでは、評価結果の「可能性」(likelihood: はっきり定義できる事象が起こった、あるいは将来起こることについての確率的評価)と、「確信度」(confidence: モデル、解析あるいはある意見の正しさについての、専門家の判断に基づく不確実性の程度)を表す用語を、一貫した基準に基づいて使用している。

これらの用語の基準と本書における訳語は以下の表の通りである。なお「可能性」の表には、第3次評価報告書で使用した訳語を参考までに併記する。

「可能性」の定義

用語	発生する可能性	第3次評価報告書日本語訳での用語	
ほぼ確実	virtually certain	99%を超える確率	ほぼ確実
可能性が極めて高い	extremely likely	95%を超える確率	* 可能性がかなり高い
可能性が非常に高い	very likely	90%を超える確率	
可能性が高い	likely	66%を超える確率	可能性が高い
どちらかと言えば	more likely than not	50%を超える確率	* どちらとも言えない
どちらも同程度	about as likely as not	33~66%の確率	
可能性が低い	unlikely	33%未満の確率	可能性が低い
可能性が非常に低い	very unlikely	10%未満の確率	
可能性が極めて低い	extremely unlikely	5%未満の確率	* 可能性がかなり低い
ほぼあり得ない	exceptionally unlikely	1%未満の確率	可能性が極めて低い

*: 原因特定と放射強制力の評価のために第1作業部会報告書で使用している用語

「確信度」の定義

用語	正しさについての確信度	
確信度が非常に高い	very high confidence	10のうち少なくとも9が正しい
確信度が高い	high confidence	10のうち約8が正しい
確信度が中程度	medium confidence	10のうち約5が正しい
確信度が低い	low confidence	10のうち約2が正しい
確信度が非常に低い	very low confidence	10のうち1未満